Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

へ13
1867
2
へ13
2841
へ13
1867

饗庭藏書

藏山

三宝文庫

三宝文庫

三宝文庫

和歌は言の葉の戯れとも。三尾の山ゝ千ゝ夜の富馬ゝ。
三神の来れる語路よりも通ひ。地ゝ秀白ゝ出る足
ゝ。善哉遠流ゝ逆移あるべし。順乃
ちぶゝの銘ゝ重ゝ。ゆゝし庇言の数。
法ゝゝゝゝ夜古乃丘をあぶ。古道坂
弓弟ゝゝゝ箱のゝゝゝおゝんも。
さゝゝぶ士をゝうゝはの国や。ゆめゝゝ

[illegible]。子供遊びの[illegible]馬。
ハイシイ童子の[illegible]。[illegible]人[illegible]作の[illegible]本
[illegible]。さて[illegible]ぬ[illegible]鞭をあて[illegible]。
引[illegible]と[illegible]負[illegible]。両馬の
合ぬ[illegible]。[illegible]。

四方赤垣主人 顔眞

下ノ大原

戯文報條 狂言綺語自序

天あまぎ地あり。陰あれば陽あり。男なれば女あり。好歹醜美。貧福尊卑。花媛あれば土妓もあり。財主あまぎバ幇間もあり。優長あれば結束あり。雑副もなれば支と闘。凝呆あんば那伶俐れ露ると支あり。粗拙なんば盍高巧の顯弟事あんや。

ゑゝ先ゆくべども智者ハ一失あく愚者ハ一
得あるを見てそ入我我入ハ我入ハ我入ハ。
速牛兒を淀遲牛兒を淀まぬ水ハ流行
を從て物換て星移て入替乃優名目も。
出變乃趨奉家を盛衰榮枯ハ轉回に
造化薄命俱ハ天公より賜ハる
因縁の規矩あり。されば善をも善を當

らば惡をも惡ハ定ら不。腐ても鯛を味ハ
人貧てを勝と思ハ人各食藜蟲ハ好嗜
あり。上喰の味も隣乃糂粭ハ不如といふ。
鳳凰霊臺ハ樂を窟屈なる菊花肛門ハ
不及ゝ。點心舗乃表ハ大福餅と鬻ぐ
も名酒家の門ハ酴醾酒賈ハも是便
賈客有てハ賣主にあらぶや。其氣で

あまれば鍼面皮的。編文漢の假侶もあら
坂や。兒手柏は二個〳〵。綴置〳〵報條の數品。
這小冊ゝ方底圓蓋て。以〳〵借本的乃責塞
塞〳〵。彼風来山人が。飛花落葉の塵と拾ひ。
旦牛門先生は。四方のあの〳〵粕と嘗れど。
原来是も及ばぬ夏あり。及ばぬ雲の上人
の。冠辭と各處ゞ。未熟み〳〵

國調

乃。〳〵づるさんづゝ。侍るゝ〳〵けも
むつ〳〵と。俗ゝ近ゝ一家は文體。風雅
でゝもゝ。洒落でゝ。狂文でゝ。俳文でゝ。
半吞半吐乃戯作者調も。假字も手尒波も
ちゝぬひは。〳〵しゝ。〳〵戯呆の一巻。目て
狂言綺語とゝ。賛物上手乃衆文客。
老人と呼び大人ゝ。唱〳〵道人とゝ主人

〻稱〻翁さんが〻諸先生。許多の中で
恁般下手もあれば上手も志れば。下手ふ
も怪我高名あるべし。上手の手〻も水の
漏るといへり。さればこそ食蓼虫あるべし。犬を
歩行ば棒にあたる。紛中れ評判あるべし。愚
者乃一得備置く。書坊が利徳と喜ぶ
べし〻。故人風来紙鳶堂乃口調れ

下ノ帝三

平賀源内遺作

倣ひ。月池の先生が風調を慕ふ在下を。

あり方茅亭之今八月来出人下改ム

江戸前の市隠

式亭三馬題

狂言綺語目録

式亭三馬著

延命日切艾報條　都ちら　報條
手打新蕎麥　おだわの関ゑ
即席御料理　報條　七色座禪豆報條
壽落雁報條　京白粉　御洗粉　報條
即席御料理報條　仙方長壽綿溫石報條
倣段足舗報條
刷頭的人修補髮頭器願文　賀談洲樓差人六十初度
狂歌堂同盟判者披露　たぐらくのはくゑ
十大人を壽くの字はくしの文　相生鮓報條
以上

下卷

延命日切艾報條　式亭三馬述

夫百病ハ灸をべしとハ時珍が本草小要しく灸を
をゝゝや切艾ゝ近松が祇狩に見えゝゝいづれもいづれ
右左皮切もまぐるくと三返ハ引て煙艸よりハ灸上
戸の言ゆゝて人神をゝ祭りゝゝもをゝゝをゝゝ思
ゆゝだゝをゝゝるのを思ゝよをゝる江ノ節の本文むべな
るゝれ健自慢の灸婦ゝ麿と問て吉日式羅じゝ年を
やゝゝゝもゝ警ゆゝ巳の日かゝんゝを祝ゝゝも善ゝ知ゝ傾ゝ

えれば行灯の手暗き似たり二日と堂て我侭と悟るべし赤固
子と悟く其子成食ハねば大中小児しゝくも豈論へ
りんや明堂灸経に灸點三歩なれば孔穴あるべと
いとぶあるべき曲てきえる員とくもあるべし一歩の艾
五天の體に足れば一すの虫も五分の線香ほどえらべ
洗薬と練茶と減し按摩ばりてあまるべ唯とめ三
東六乙の一切衆生さしも考しかし艾の効験ともく
燃手ハ灸ハ嘉と灸湯酒の製ハ世もつて考る處ん

弔が割ハ考ハ茶艾ハ霊験ハ考あるべ延命地蔵菩
薩の割ハ茶ハ洲ハ佛ハ純中六乙経のお役目ハ
んぢんうんもん四火惠門経絡ハ考ハ服紙門ハ
石ハ刺ハ限うんと考ハ遠頼と叫べ俗稱ハ日
限地蔵菩薩ハ火ハ縁あり切ハ艾ハ縁あり縁
ある衆生洲度の折言頼仏空しくして地蔵の顔
も三舎国の亀裂ハ安ハ考ハ面恕乗和尚の像
佛の膚も金ハ考ハ光赫奕ハ現ハ善哉

西を。蓋掛くくとこの。文屋くのかもむきうて。爰の告げ石の
つぐうくを。佐の国の。鳴絵と。撰りもの中と。小唖くて。
衛く。袖涙とこげ。紙の。音ひこんうけと。ふもうなるくゆく
ば。世反日切芝と。招牌をおし。名称へは。吹独事
こい。ものとう。揺のきう。病ひきう。月きうみ文乃。切紙を。
清ゑ。ありて。上り。月ひ。下り。毎日。賣切芝
く。繁問。うとべくと。むくと。奉奉上り上。

小舟町抹香店
伊勢屋安右衛

都おだの国より報條 式亭三馬述

遠くく着い。所。揺く。兎れ耳も。聞き。近くく。眼ぶも。二年
寄れ。千国よの。鶴あるこ。十国よあり。五あり。算も。素盞ゑ。色く
の。色氣とうまり。食物の世の中。とりや。蛇の乃ハ。上戸が。走る
も。所ハ。阪。屋が。利屈とやこば。拝もく。孔明。饅頭の。本
店。能国。歌。賃よ。元祖。桃太郎が。赤国よハ。ホトホ
毒果れ。鬼とも。走てやる。日本一の。名代。あへもろこう。所。
名よ。耻べ。亦我国。ちむく。ろう。茄。帳。仍。よもちひの。鏡

餅を御神酒小碎う生餅の多日れ照りも及べべ
かるかりでえれ餅ゆれば世分あるるふエ夫いうて国よし餅
と面のあんうまい安いと申うて賣れるお花の都餅
きふこの砂糖い玖白の並とそんまう名い大白餡ハ中え
ゆり別号と大和あん又おなあ国子とヤセども臼杵ホもの
さしくりつつき出しれ新粉そ色ゆゆゆゆ童佐小三色
五色はあうえお手紙に仕出しれ新製彼糯米を
炭うかぶでい假在行の大きか虚そ只一口の論よ非ど調

味ハ勿論清浄を尚ぶ製しゆえ丹あう
ねども味噌汁ホてやあれば小児乃は脳氣ゆうも
お醫者ホ伺ハ面倒ゆう其ホ雑多稗ゆ要量効能
ぶけの世ゆう成やしくまうゆ安いそ風味ハおそう宜
酒の肴よも食てうやと餅ゆ
下品評判ホ下ゆうげで高ハ繁昌して早速食も
ち地面もち醫の如く微塵粉の微塵積べやまあん
あんうもちでたき弟ゆ九長者ゆ成り程陽

器屑ほれ立のかどと。程幾千代も美代の亀乃甲印
のうれんと立目あてふ法有ふ伊勢物語上ハ

神田川辛夫ろ町
春田屋栄治郎

手打新蕎麥
昌席御料理　報條　式亭三馬述

花ふゐ〳〵く蕎麥ふ拵。水ふ拵ぶ舟切いぐまろ蕎麥をもぐさ
んや。紅川の風味ハ姉ふして。ちゝもてふのを係ふあ〳〵ぐ
長明も鴨南蛮を味ひ。あ〳〵鬼の山屋ぶ温飩汁もと
ぐ〳〵きゝ式獨ちらん。人麿も諢百首ふ咏ゑむ。

もく蕎麥ハ甚つよく魏晋のゆうぐまちぐんふん藻
土も客あとでまゝ食麥切の膳ふ待三和
まちふ行ふぐる唐人さんも。ちゝうてゑ。
されゞ人明天王ち蕎麥切素麺喰ひ。合ち幾
明ふ下して稽式稽繪の大平ふ。ぐ〳〵ぐ〳〵でぐん
とと。板箸日本紀のもと。ようぐもかゝぬ内程雛人
形天王ちゑくものに定て後限ち蕎麥切とハ外良賈
のせう蚊まもちゝふしう。昔〳〵の赤本ふ爺と婆ふ喰〳〵

慳貪老夫ゞ名ゝ〜おゝ若麦屋の箱の角〜まで〜唯わく
抜を賞さるゝ中おゝさるゝもいねるしば所托る愚脚ゟ長
ほ上ゟ多刻衣の芙蓉麦ゞ延まゝ〜しば小短く水と切て見る
蔵毒中ゝまゝ拇私見世〜儀先達ゟ口吹触〜
上ゟ処見傍ゟ繁昌仕ゟ様ゟ入て中ゟ中ゟ拇ゟ有
ゞ〜ゟ有ゟ粉ゟ上ゟ梅ゟ〜ゟ〜ゟて若ゟ〜
ゟ身ゟ粉抜の微塵粉ゟ碎ゟ系果の辛ゟ世〜ゟ
孫〜ゟ細ゟ利ゟ錦手の〜〜ゟ彼深代寺ゟ挽

抜ゟ中ゟ得ゟ拇ゞ甚大事ゟ〜ゟ中ゟ付ゟ斉麗〜ゟ風果ゟ
会ゟ入ゟ有ゟ向ゟ勅ゟ〜ゟ中ゟ去ゟ上戸ゟ中ゟ器称ゟ
作ゟ〜ゟ高ゟ酒ゟ香ゟ芙蓉麦ゟ〜ゟ料ゟ中ゟ料
理〜ゟ中ゟ加減ゟ〜ゟ献立ゟ席
中ゟ料ゟ細ゟ〜ゟ仕出ゟ屋ゟ中ゟ
ゟ雑物ゟ料ゟ〜ゟ見ゟ暖ゟ中ゟ
ゟ〜ゟ〜ゟ料ゟ一盃ゟ
ゟ�〜ゟ〜ゟ中ゟ光駕ゟ〜ゟ奉寿ゟ

別て新板の評判料足も備に年毎に商ひが二役
なれバモ一ツまけく二三なふしく年毎上作以上

芝神明門前廣小路
風詠庵

達磨額
御目印
七色座禅豆　式亭三馬述

夫本来無東西何處有南北とあれども松本来
無商賣何の處ある何ぞ思ひつき有らんとぞんじ工面
十面面壁の床に坐し觀法なんぞ勘定が第一儀とて
らく商ひの道を悟り漸く座禅豆の新製を工夫仕
まし先腰かけを椅子に擬へやさん見世の檀上にも達
磨の額を御目印と致し先年より御披露申上候処
各様の御蔭をもつて日増に繁昌仕り御評判日に
倍して売まる事夥しく是れも老店より迷故三
界いきなき可やと悟故十方の御得意様方押合へ清
入ありて或ハ御進物の折詰曲物まてを空しく寂しくの
お茶漬などの菜品にもおもりありなく妙法橋やも
とは御聴の冥加にあり此度同町に居を轉じ憎り

とたふまひ冥く新庵物制義を後に風流
より極上品。粒定斎麗ふたてや。所品山の古
寺で。富の小川が第家へんを拭ふ。欲だ
りふ。粒相磨しび第三仕分を上を接俳ふ
奉預上い所最を唱

南京町
印のや泳を清

壽藻雁報條

柿饅子の砂糖やハ種餅餌と稱ひ五養水織と
いへも。必竟甘味をえく要と京菓よ三本わど
あまけのさしねその内も。寓絲糖續紛のあんぼう
羊羹さとうの山椒餅。ゆうさかのお茶碗菓子代
ちがして。細工ハ流く仕出しの新菓子。或ハ栗の
お岩さん。又ハお江戸の達引餅。ちよと天満橋の橋掛まで。
土産でう愛大半家を爭ひ。名代の招牌店頭よ輝て
評判ハ嬉ふ弘。相えの懽風よ飜りて繁昌代ふ。
く。平ガ粉ふう変雁を。祝ひ市の下鄙と去
て上菓子ハ名代彩遊余行工夫ふ代ふ。

ア[illegible]物つゝ茶席の口とり。口小孝りの德ふゝ。怒罵
好[illegible]老をもやしうひ。口を[illegible]の[illegible]ふ[illegible]
言の嘗ともとむ。世藥落雁を常ふ食とし。脾
胃を補ひ氣血を益す。不老不思議の製法なり。
彼[illegible]色菓子は色[illegible]成は[illegible]。[illegible]の[illegible]脚し。
舌を同じくし味へ[illegible]。[illegible]に廣言ゝ[illegible]せ[illegible]
[illegible]。[illegible]ふ[illegible]。花のお江戸のいつまでも榮ん
[illegible]さ。強い惠まれ。芝柳文の[illegible]めで評判

芝は流行いつゝ[illegible]ふ[illegible]も[illegible]ゝ[illegible]。[illegible]戸の
建[illegible]。[illegible]構は。金看版と輝さんと。今ようたのゝみ
[illegible]。行[illegible]ゝ[illegible]。[illegible]ゝ[illegible]。[illegible]
くゝ[illegible]文字の[illegible]落雁評ぞんでくゝとあらいて

京白粉洗粉報條　　式[illegible]

通鑑　經目五十五卷目。ちゝぽゝの紂王は姐己を
[illegible]。[illegible]。鉛粉[illegible]。[illegible]朝
持統天皇六年は。門親成鉛粉と造りしゝ

紀記史籍引ごとなし。百人一首に標注を見
えたり。是白粉の鼻祖にて。今よりて用ゐる白化
粧の間のるるとなり。彩粉房に鄙やるく。英ふたら
ど醜ふたらべ。淮南子に
もの女子の裙ものや。清少納言ぶ物を付よおそろし
きものお老女の化粧しるしるたるるん如ら
の引眉志ると同日の談なるべし。休題東西〳〵平
が家ふ初ものたる系白粉の妙といふを。第一玉敷乃

あづまとなり。面色きめふして鬱しれ光沢と出
一切の粉物をはぢめ。常ふお用ひなるしが。鼻の上
へ打る系金の患なく。三年二月の初長生屋も器量自
慢の海棠桃李。白粉しる容色嬋娟として。ぞやるる
まべとなるもなり。額の出るとおちるとえん。鼻の
うちぶかぶんまり坊も。まるに目鼻。坊子と逆ふた
ゐる如し。或いはえぶるるぷりあして。色情まん
くしる。色男きどりの中方に常にうと化粧とか

さるる。又い茶碗ゑ節。ゆをゆ山水彩そのゆ色
とのゑ下い。謀ゑ唐渡りの宋玉元。京ゆりの業平ゑ。
女中方の恋まるる。守文れ思焼ゑ。外よりゆ。も
しゑんぐしてゆまるゑ。ゆゑれ生僧ゑう向くゑ。
と山穂ゑ。ゆて山羽ひゑ下い。粉又老庶の私見世。
小男物いゑゑ赤綿。その外行中かやゑ所。世話と
やしの門おゆいちどんどゆ。まゆ黄砂の早
天ゑう。おし合くゆ入ゑ糸。ちくゆ。ゑゑ外のよく

ゑゑる幾行屋ゑ。ゑゑ業ゆこれ極ゑ。山恵れ穂
ゑ濡ゑ。ゆ礼の為引札仕。粉ゆ智御男向ゑ伝
付ゑ赤絵。極ゑ紙上い以上

幾外屋徳ゑ濡

即席御料理并仕出し結　式百二馬述

即席料理の行燈ゑ徐御小充ち。御貸座敷の招牌
ハ連雛小般ゑ。江都四里四方新道小路。魚情ゑ塚ゑ食
物の繁昌。酒池肉林の栄曜三昧。ちん〳〵鴨の小鍋立ゑ。
ゑゑい浮虚れ水雑吹。宿酒の腰ゑ同ぎゑして。

流る華人の酒會も。冷燗の一碗にあらざれバ漢土の
爛酔的が惟酒是友とくるをまゆバ。紅毛のトロンコ。ゾ
ウピイデリンケンと泣をよび。天竺のノンダラベイも。朝鮮
の好慶酒もおらア酔やアしわくとらへ。我日本の一飲氣
に機嫌上戸の梟ころそ。喜見城ともまうさるべけれ。百薬
の長孔子傳が数まちがひなく孫たりも玉帯に愚と耕
ひ。狂菜のおどる六が戒ある。夢中作たりも遠水の趣と
しるべく。兎角浮世を酒しや小さし。釦の盃引寄て呑
むも。極楽一休も救菜ある文六が門に三年立あひつ王堂でゆ
ら々。由良彦も生酔本性違の誰人に立寄らう。
李白ハ一斗詩百篇。亭主八盃義理に篇。呑れしさ
盃をふつぬし喰ひ流行の唄ありで。毛とまり菜の
酒あれしば。彼其唄の文句にあらず。八此度あるさま
店を開きし。思ひ付る料理仕出しも好あり
仕三次第御進物の重詰も大量に至の中に秘採
四も二十人余の四人数まで。寸余分小寄合ちでも

ぞまのあがらも樓として四方よ合せやい。花二階の結構。
風雅でこもの〳〵酒蔵ぐさ〳〵。桂小五郎も聯もあり。
鴨川の狂歌の額もあり。中倉板よ唐号とあるさび。
能こそ慢の高きと去りて。安いが弟人徒用向ぶ
切の大きさ高八一すち客のお答表。一号腐とあるあの
酒家〳〵走まの面倒あり〳〵。奥庄よりとうんでも用
でえ江坂屋庄〳〵糸。竹変あり〳〵ふ西角高賓江
坂屋庄〳〵糸西酒屋高賓どち〳〵公ってもろ遺

あるこ。書物所の狂道狂庄。是もどうやら地口のやう
ざ〳〵。只口くせもは洋米。狂道狂庄。居
酒屋高賓。江坂屋庄〳〵糸。くどくも〳〵息惜こう
ぞりかく歌曰

日本橋通新町角
江坂屋庄兵衛

仙方長寿綿温石報條　式亭三馬述

這箇長寿温腎綿。倍小綿温石の絵い市が
先祖一子相伝の秘授。虚とび中さぐ。勿論中華
名醫伝方。名も倫まび。抑温綿の由来と尋ぬ

はゞ上古弁古より巧言令色を門科外科古方後
世ゆるべし。仲景思邈が聲色法より彼草澤の
良醫より密に授る妙剤にして小茲糸綿と懷より食
お脚のよくあるこゝ疑くはなし。勿ち糸力五穀よりめぐりて
こゝ風秋雨水粗ゝの患ひなし。不消うぢけ寒ぐり
ぢうの治方極或は腫より首丈色より下ぬ艶火痺
の形情ともこゝとなしふるゝ神の如しと
中てゝ定りの自讃ゝ思ふ方もこゝ有ゝ也。

諺に古今未考有。稀代不思儀の霊糸。○世小箱
入温石のがゝくぢ。温石の玄類とぷもく。其効
能と爭ふ。温石大病の心と志ゝやた
ゝ汁豚汁湯豆腐の力と備て。新ゝ五の洋
ゝ風呂玉子酒の勢ひ。どゝら一ゝとものぐも。
時小ゝ天日淺もゝ有ゝ
ぬかせの雨露雪丈いよ虚弱の人と傷ゝ温
絡の奇効ゝ皆ゝ一の腎水と竟ゝ精と

さげまし邪濕を去りて食をすゝめ瘡をまと排ひ脾
胃を健ゝ上衝と下ケ骨蒸をさめと或い老人の筋
骨を堅ゝ又い小児の疳虫を去り婦人の血と調
経丹出来合文白礼詞効能いづれも同しゝ
也但正直の主治とゝさば

中風　痰飲　積聚　咳嗽
腹痛　疝氣　癰疾　痢疾
痔漏　脱肛　ゝふおんべど　冷ゝ　痛の不ぐ四百

四病といふもさら八百八町のいづれもさま
て此薬ごろ行ゝ効ゝるおよ驚ゝて天竺の花嫁日蓮
ひの綿を頂き頭とゝ牛ぐゝ室蒲団小
くゝまりて芙蓉の綿のお服とゝ抜ぐ所
まゝらゝゝゝゝ中ゝ方ハ牡蛎ゝ其あゝゝる怪梅
ハ口鼻焦熱の竈風呂元土用干ゝる不動ゝ服治
ゝ五ゝゝゝ木乃伊ゝるゝ湯ぎびゝく陰ゝ茶の
ゝゝ吸ひ全薬ゝ紙ゝあゝまり彼唐土周の

波瀾王妃容后妃のごとくゆく鎖の柱でも
抱ひ行べ為ん程すべし其時炭屋をせぬやうに女
中方を法用ひて手に行辛世殿に吹
疑ふ不ましく評者よろしく小お義を以て金二分
貧の病もさらと治し千ト懐も仍まり薬優
奉行上に喜ん功能ちゃう。チョンくく

微吳服屋報條
賛盥修復願書

大でんま町二丁目ちんた
茂田金六郎

式亭三馬述

げんきん
かけ買ひ

正直河寧請合刺

飛騨新出ヨリ沿る出彼家ちなみ中上ハ

向宮ヶ村茅部孫兵衛ちんと新ヶ花ヶ伝五郎ち
ゑいたる私家業ヶ係ヶ先ヶ御所内ヶ沿ヶ出勤ヶ
所員屋賀ヶ好賀ヶ出ヶ沿ヶ出ヶ世日の上ヶ沿ヶ出ヶ
百ヶ加ヶ五郎新ヶ仕合ヶ出ヶ漢ヶ日ヶ新ヶ極ヶ方ヶ出ヶ
ヶ伝ヶ。日ヶ暮ヶ人ヶ扶ヶ帰ヶ。ヶ出ヶ天ヶ宝ヶ教ヶ御ヶ所ヶ内ヶ向ヶ伝ヶ

此度髪結所余り稼も仕合よく渡世も此度別に手軽上
品細工類并に鬢盥并に大坂及び鬢盥で
あつて髪結床の元祖のごとく手ぎはにあげる第
塗の毛並も木奥の天窓月代不絶ヲあつらへ御つらく
考へ出し御小生業なれども油の垢におそれる
為自身を稼お見世しにおいでなさるゝやうな方々は抑を
とやうにまげ擲も少しゑ坊もお拾ひいたし候の方をあはせ
候ところなるべく候是よりどれもいつ歌に似く〜櫛く

なてもうき世よりの刺刀の刃のうちを見頭中より人が自
力に雑役なまけ行車各様方御贔屓御厚情を不
限おのづから御助力にて金を稼へ繁昌に奉希上候。
割にて出しおかつきよふ細工をこれハ昆布老の
おやまかれ出来に候。なま〜八気の字なりの御手軽に候

御髪結　小判形ちよちよきり中田　さびくらし中田
御襟結　おちやんけし　半月形出髪

同出来候
御月代
御髪結
志かく

御商人様方御実体向
大いてう髷　結構御染く
小いてう髷

とびぐち本田
いきちよん本田
ごくやいてう
あをうけ額

当世仕立
御好次第

上代風
ちやせんがく
ちやせんまげ
あをさん本田
らくきん本田
中剃本田
くつさい眉
たまげ本田
あおさげ本田

手前御役者出来物　ふりう
御医者様御頭代　さうやき

御月代　両みち
半みち
二分月代
五分月代
但おとこをみせて
大キク中ぎうぎう
そり中ハ小紙さくせ

右何も風俗おとこ次第一切仕候

御えり先キ
萎ちらし　たへきけ
角だけ　まるえり
ゲさ　剃りつめ
また外まで

御座敷向　伽羅の油より追き　油と御剃ひかせ
大さぶさ　油べつとう
おちやせん　水油
そりさげ　とく

よろづあつ所
御目印

式肉ふかくれ居中此

但し御髪一方御本八平番出来候に合せの節
はいはいの方へさされ月代のひげ剃り御座候
すへ様文平生入念仕り御ろよ御剃り御座候へ
エリの油に添御中やうおもは万一御ちぶひ
ふ申候て早速御ひ申上候

戊十月
ひろびの日

えびも根本

り文化の御利用の末の
御そのまんの内を
ためきて出きし一の御

此町門銀茶店
吉兵衛

諸州書生番付

表図格家名の横上おいて狂備

武亭三馬述

市川團十良ダ

ちばらくのしたしら稱ム倣く

のくてらるごんさてくる稱

一名烏亭馬

立川先生と後

宰の賀

書のしたら稱

倣市川白猿文法

武亭三馬述

東東南寛中秋西戎北夷八荒天地乾坤の主宰にあるべき

人のちらざらんや。夫い市川團十良ダの役者の親玉見ル

立川後洲樣。さるおいら作者の親玉樣。ちばらくの

稱ていで当時評おおくれぬ先生法師八方万々の滑稽

れその間少も赤い奥羽白石迄西い諸国とうぬ書の大年

乗のまれ拘ハ家の名うる江戸子の本庶。まづ鏡の金

かんだんゆうろう魚のひらきれ綱ぶとい乙の水小相生町う

そやごんかね本町の釈方ひはじく麻さ彰の再興盛向も
よみからし年代記その澄觴とろしせん栃栗三年楷殺
歳十八年のむかしくむかし言南のむきうや小沙の含が移ちう
ますとものはじんハねくおれ氏神弁迹のうしふ知られてお
後をあらそひおさまるの草稿ハ弁の以ちおを汗とぬ
ぐひ屋が字形の椿に元つ年く芸くたちすの含嵩く
年く同ドかくぶら流られ順ゝ耳も耳順の志耳の遠
かりん志ハ新板自然の草紙とかんよ近くハ寄て薬焼

壺たのしの席ふハ毛氈の耳ふ出る同類も耳ふ順よ
ひふく化見物の耳ともりくごとも知らうや彰のちど
むり古今耳同ふ志る具てる宇治大納言の一壽孫ふ
野見てうみごんせとろ孫ふの我得参尚年にかりて上
十歳むかしふそして十六歳志ても高雅の色ぶ流十七
時さ気涛へうるひどやごとうか年あれの丈吉例ハ千代よろ川ぶらぬ素のさうね
小畏夏の侍大小と若出抄の筆とりてかさのそなハろ
三升の紋ハお江戸の花見盛元店のかんざん間をく

よつて戯作も商ひ向におもしろく流行ハサアとゑらいらがあくさ
いの席開きまづ初日に其気になられてなぞも書ぬらる僕で下
山に文の安賣文章切ぬき文句もおきふ出る當く御覧あ
ちかひをするがさんばご掛ねの手わ世わら乾物屋の袋にて。
紙屑籠へほうりこむ。江戸一流の滑稽根本福内鬼外
作るの長兄弟れハ月地の風来もしろき之ふ八狂言堂
あわろゑあさ婦るつれりのふ。烏亭焉馬るが今月今日吉の発
の遠ひるき代祝しようつ孫のすゑくし。モウ万年で年があくるも

あさくさぬ。手製ふ老門おふ市川白猿の氣のくさう。
落噺のん開口とるの鳴見式亭三馬ぬ敬白

判者披露

十大人を未く辭　式亭三馬述

頃日四方歌垣のうしが六の字づくしのたくれめんさうとゆめるに
云二翁おのづら備て文才おのづら感あり牛門先生とらす。
而の口六の字わ見てゞるとあく風来山人とふとも。ひとひよ六の字わ
難有るほど。人のふつうなく我もづつの外せても似つぬ十の弟子のた
それぶさへ鷺を烏ぶ鶴の真似すがになさ千人の判者さらを寄

其てこぶ小曰く大千東の神祠ハ我國の神宮小敬ひ上ハ十善の
ゆゑ人下ハ十助等ゞ拙しさまで人小十名あり人小十
可惰あり忠綱ゞ聲々十里小響き紅毛の眼鏡ゝ千里
をきハむ十番の地名々廣神で氣ゞ忘れぬといくども十
番の稽ゝ十さんの移ゝ稽つも十番切の芸ハ十訓ゝ
名ゝ名ゝ猶金十將軍の一番目ゝ見ゝえゝ十王ゞ勸
進ハ九王ゞ為ゝ人ゞ十人の大人ハ披露の席と設晴天十
日の角紙ハ十字ゝ街小東西の番附と出ゝば判者

十評の寄合ゝ十点上の拙ゝ東西の猪員ゝ十日の
雨ハ時をそぐぬ聖の世代の中ゝ十文字の鎗も靴小
沈ゝ十ゑの鳥銃九も筒小ゝ時流風ゝ変れゝ小ゝ
叶苅童ゝ十社拝択ゝ崇ゝまで中ゝ神のゝ中ゝ十
府の菅筒七府ゝ十ゝねも名ゝ十ゝ松十の眼りの甘
めゝめゝうんこぶきゝ新まで中ゝ十のゝうゝ
こゝれ十幹招陽ゝあゝ去のゝ人ゝ十判店小雛
店の絵ゝ小ゝ小案の敵京ゝ極下の都備十人のゝ

おの〳〵十事の教へをけて、おもちの例かたちの人を宜るる
十月のうたゝ十指の指さす如ふして今既に狂歌堂の
垂情場ふ十本の柱〳〵かどがまに十羅利のまんりう
弥勒十年辰ちまも歳萬載の賀とやうこそん常に十
示とのゝまて假も十悪とるさび書と学ぶ張懐瑾が十
體を拙らんじ書と講むふ諸子昂ダ十勿とはゝ〳〵字治
十姑と儀ぢゝ〳〵ゞ十種香と玩び好んで十竹斎が画妙
たちの家ふち十毋の春属栄人身ふち十義の禮と言ん

じ。もとゝゝ徒ちるが如人ゝ。盤の十金にうるひらる。束帯十書の
七先とのゝびかゝいきをしある十君子のぐんまぶりと暴ひ
てゝ十大家の文集も十才子の名月集ゝちぐどく宋詩を
ふ芥子坊ちも本田天窓の粗詩をやぶのべべき如是我
聞釋門の十大弟子ち北清藤の常春盤ゝ向て五分線
香の弟産剃をうゝ生きべ子曰孔門の十哲ち男平偽見
三立とゝ元兼号のおと撰ぶ。足ゝ〳〵ふ十ぢの
酸漿ち十月ふの容を似ふふ等〳〵十月梁の腐河

ぞ十種腦の業とぞいふんや。假令十文泉の通用渡錢に劣る
ものゝ十人おのゝ才ありて人並よ待きこゝろしらるれば年の
まゝめでたきこゝろばえ。十の字ばくしのうめてもはるぬ。
十万坪よりもの長文くゞしくさいもひてうれかな
十分ぶ一をのぶることのうち十把一下くゞげのおのきらまで十月
の中ゝ十日の心ゆもゝ十ゝでこゝ文安奏のうれぶくとつゞ
てこゝぶきのきたゝゆゝ彩ゝ十年はゝ戯作
のうまぶとうる雜奏作者ゝも此道あるつゝものとよべ

ゝうゝ三和の三乃字馬の馬の字ものひあひの
祝の木ゝゝ綽号とゝゝ式亭三馬ぶゝうゝ
ゝこゝゝぶゝゝよゝん

御膳相撲ぎゝ報條　式亭三馬述

醉と釀ゝうよ五畳敷漢て漸ゝ熟ゝ笑ゝ賣人
の律義ゝ雜と合ゝゝに盃の毎ゝまで吟ゝ笑
ゝうゝ買人の律義ゝ律義ゝ未世ハゝゝ早
くゝうりしぶゝゝ世の中閑義ぶ七汲も八人藝も

及びうれ千人おの早業うり清る早新早漬
彼うまのろき一歩新も今ハ昔よ者のこ狩りて糶賈
のをしらぬ声小美果をえたらせ擬店のたし
招牌よ奇麗とあるかし。老店の新家い標幟をも
出さぬうぶひ。江戸ハ里四方ちうこ。新のあるぶ所もか
く弘の嫌のお方もるく。孫しうぬもやの正中又
めづらしくユ美をうて。魚類精をの赤部神
道。阪ゝ夏花の大戸小戸どうの口も棚を新店ず

法小不同ふく。稚新を惰し奇麗を弟一と
極上不小割ゝ小ぶ。おくのをしとはらべ
ゝ下いて行卒ハ用ハ向海ふよ信分ゝ下ハ
とゆてハいう小新屋ゆれバゝて押のつゝん中ゝ
今ンあ部のさいさふうあるやゝと必くおもう
ゆくハ昆屑ハれ生をうて。開店の早湖ゆ
ものまハゝぬわど新も合し合お宮もおしあひ。
押合ゝ合て赤ひ小相生ぶしと八評判系変

若き人のく春の夢ゝい

游戯堂三馬譔

狂言綺語尾

下八年五